

こうかい ひこうかい べつ 「公開・非公開の別」	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開
-----------------------------	---

だい かい は ま ま つ し が い こ く じ ん し み ん き ょ う せ い し ん ぎ かい かい ぎ ろ く
第9回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 開催日時 令和4年9月16日（金）午後2時00分から午後3時50分まで

2 開催場所 オンライン会議システム ZOOM

3 出席状況

委員 シム キュマン（韓国）
 杉野 アドリアーナ（ブラジル）
 妹尾 圭持（知識経験者）
 孫 玉傑（中国）
 丹野 清人（学識経験者）
 バンバン ハリアント（インドネシア）
 ファム トウイ フォン（ベトナム）

事務局 国際課 課長 鈴木 三男
 国際課 課長補佐 加藤 智春
 国際課 主任 石黒 雄資

4 傍聴者 1人（一般：0人、記者：1人）

5 議事内容 (1) 第3次浜松市多文化共生都市ビジョン案について
 (2) 審議会の提言のとりまとめについて

6 会議録作成者 国際課 主任 石黒 雄資

7 記録の方法 発言者の要点記録
 録音の有無 有 **無**

8 会議記録

(1) 開会・挨拶

《国際課長挨拶》

(2) 第3次浜松市多文化共生都市ビジョン案について

《事務局：資料に基づき、第3次浜松市多文化共生都市ビジョン案について説明》

(バンバン委員)

- 日本では外国人材の受入れが積極的な一方で、将来不足するというのである。インドネシアから日本に来たい人は多い。国際結婚や在留資格などいろいろな手続きにはさまざまな役所に行く必要がある。簡略化できれば、外国人は増えるのではないかと。

(丹野委員長)

- 既にワンストップ窓口はあるが、外国人の視点でニーズに合ったワンストップにすべきということか。大使館との連携や国際結婚の手続きなど、日本だけでなく当事者である外国人の母国での手続きもある。使う側からしたら、そういう発想になるのは理解できる。中長期的には国に働きかけることもできるのではないかと。

(杉野委員)

- 子供のメンタルヘルスが必要である。最近ではフィリピンや中国の人も多い。今後はどのように考えていくのか。

(事務局)

- 現在、精神保健福祉センターがポルトガル語のメンタルヘルスを実施している。今後は、メンタルヘルスに携わる支援人材を増やしていきたいということである。

(丹野委員長)

- 問題があることや相談できる場所があるということを知らせてほしい。

(杉野委員)

- 浜松市にはルピロ（市発達相談支援センター）もある。外国人の引きこもりも増えている。

(事務局)

- ルピロは、幼稚園や保育園と連携して情報を共有している。

(丹野委員長)

- そうした情報はなるべく発信してほしい。新規入国者が増えれば、情報を知らない人も増える。

(孫委員)

- 引きこもりは家庭教育の問題でもある。発達障害についての親の理解も必要である。
- 危機管理対策について、先日参加した外国人防災リーダーの養成研修では、緊急情報の発信

は日本語がメインではないかという話があった。今後は、多言語による緊急情報の発信があるとよい。

(事務局)

- 緊急情報の発信については、現在、「防災ホットメール」によって提供している。事前に英語とポルトガル語でテンプレートを作成して、災害が起こったときには実情報に合わせて職員が翻訳を調整して発信している。日本語の情報と時間差ができてしまうのが課題である。今後は、人間の作業をなるべくICTを活用して自動化し、より迅速に適切に対応できるように考えているところである。

(丹野委員長)

- デジタル化ができれば、多言語化もさほど難しくはないのではないか。

(孫委員)

- 浜松市のLINEもあるので活用してはどうか。

(フォン委員)

- Facebookを使うのもよい。HICEのものもあるし、市内ベトナム人のコミュニティ3,000人以上のグループが作られたばかりである。

(シム委員)

- 国際理解教育について、日本人のブラジルへの移民の歴史を知ることで、浜松市にブラジル人やペルー人が多い理由を知ることができる。これは外国人を知ることにつながる。学校でやれるとよい。

(丹野委員長)

- 日本人と外国人だけでなく、外国人同士が互いに理解し合えればよい。

(事務局)

- 学校などで出前講座を実施している。また、小学校の地域資料集である「のびゆく浜松」にも多文化共生についての記載内容があり、浜松の特性として知る機会にもなっている。

(妹尾委員)

- 子育て支援について、当事者には多くの資料が配布されるが、後になって有用な情報を知ることも多い。書面の情報が多すぎると、使える情報が埋もれてしまう。情報の伝達にはコミュニティ内で補完し合うことも大事なのではないか。

(丹野委員長)

- 確かにそうである。情報がほしい時期に的確に伝わるのが望ましい。

(事務局)

- 参考情報として紹介する。浜松市には利用者目線で情報が整理されている「ぴっぴ」とい

う子育て情報サイトがある。

(3) 審議会の提言のとりまとめについて

《事務局：資料に基づき、審議会の提言のとりまとめについて説明》

(丹野委員長)

- ・ 提言の内容ではないが、この審議会の提言の目的として、「浜松市では、定住外国人住民も含めてすべての住民が、自らの幸福を追求することができる地域社会の形成を目指したい」というような旨を提言書の中に入れてほしい。インターカルチュラル・シティの価値観にも合うと思うが、どうか。

(シム委員)

- ・ 浜松にある車関係の会社は単純労働者が多い。外国人が研究などをやりたい場合は大都市に比べ壁が高い。ただ、地域に参加することで幸せに暮らすことができると思う。

(杉野委員)

- ・ 浜松市はインターナショナルなまちである。浜松をもっとよくしていくためには、ブラジル人だけでなく、一緒になって頑張らないといけない。

(バンバン委員)

- ・ 健康やチャンスを捉えることは大切である。私は、日本語を学び始めてから仕事や地域でできることが増えた。

(フォン委員)

- ・ 他の地域にも住んだことがあるが、浜松の人やまちは外国人に優しい。日本語がわからなくてもいろいろなところで通訳を利用できる。

(孫委員)

- ・ 私はずっと浜松に住んでいるが、日本人の友人が多く、友人から得られる情報も多い。

(妹尾委員)

- ・ 提言内容は、これまで議論してきた内容や意見が反映されていると思う。丹野委員長の一文もぜひ入れてほしい。

(一同)

<賛同>。

9 事務局からの連絡事項

10 閉会